

ダイバーシティリレーエッセイ～様々なひとの多様な視点～

本質は何か

What is the essence of it?

関 史江

1996年カナダ、クイーンズ大学へ共同研究員として出張する機会が訪れ、日本の教育とカナダのそれとを比較する機会に恵まれました。実験試料を約70個作成し持参しました。カナダ到着後、教授との打合せ時、全試料を測定し結果を出すには100年必要だと大笑いされました。

Prof. SAIMOTO 研究室の標語

“Experiments that do not contribute to a mathematical theory of a subject are not worth doing.” _ C. Zener (1946)

- 1) 科学者を目指すなら「本質は何か」を自分の頭で考える。
- 2) 研究目的を十分に検討する。目的に向け実行可能な目標と実験計画を立てる。

研究室のセミナー時に、学生たちが遠慮せず率直に教授と議論し、小さなミスに気づくとすぐ指摘します。その指摘を検討し、教授はあっさりミスを認めます。本当に驚きました。カナダではメンバー全員が率直に発言し合う教育文化があり、語学が苦手な私でもとても居心地良く感じました。この居心地の良さや開放感は、1985年から複数回出張した中国滞在中にも感じました。

出張中の居心地の良さに疑問をもつとともに、普段の自分の態度に気づきました。話すとき、周りとの摩擦を生じないように、圧力をかけられないように、不利益を受けないように、その場を取り繕います。立場が弱く意見を言いづらいたときは強者に服従します。「教授の指導に従い、実験をし、この結果を得ました」と学生が冗談半分に発表するとき、その皮肉・付度・悲しさ・苦しさは、まだ伝わらないかもと、小さく思う。

パワハラもセクハラもNO！ 私は、被害者にも加害者にもなりたくない。ハラスメントは人権侵害。2023年に公開された男女格差指数とその理由を、科学者の目で分析理解し、日本に男女格差がある事実を認め、ストレスの少ない安全な環境を創り、教育企業文化を格上げしましょう！

参考：◎世界経済フォーラム (World Economic Forum) 2023年発表した男女格差 (146か国中) カナダ：30位、中国：107位、日本：125位。(女性の地位をめぐる各種統計データを「政治」「経済」「教育」「保健」の4分野に分け分析。男女平等であれば「1」、不平等を「0」として指数を数値化)

◎世界銀行 (World Bank) 2023年発表した男女格差 (190か国中) カナダ：1位、日本：104位、中国：109位 (日本の各項目は、移動100、職場50、賃金25、結婚80、育児100、起業75、資産100、年金100、前年と同じ。職場と賃金の評価が他国と比べ低く、格差が大きい)



2020年2月南極大陸

昭和は遠くになりけり

The Showa Era is growing distant

西田 進一

もはや戦後ではない、との池田勇人首相の言葉が流行したのは昭和31年だった。原爆投下から11年後のことである。ときは流れて、元号は2度変わり令和5年となった。昭和は忘却の彼方であり、文明はいつその成熟を増し、男女平等の概念を馴染み、はずだった。しかしながら、私を含めて昭和98年を生きている人間が一体どれだけいるだろうか。夜の帳が下りたネオンの灯に郷愁を駆られる男性はどれだけいるだろうか。

さて、世界経済フォーラムが発表したジェンダーギャップレポート2021での日本の総合評価は156か国中120位だった。痛切に感ずるが、それでもなおおえて若干の無謬性の否定に科学者としての矜持を示したい。

結論となる問いを先に述べると、東洋あるいは未来には西洋とは異なる民主的多元主義が存在するのではないか、である。男女平等を英語でいうと、Gender Equalityであり、平等に該当する単語がEqualであり数量、程度が等しいことを意味する。スペインの哲学者オルテガは著書「大衆の反逆」(1929年)にてすでに欧州の多様性の喪失を嘆いており、些かの論理の飛躍は認めるけれども、性の希薄化、つまりジェンダーレス、無性化の果てにEqualが成立することに矛盾は無い。一方で、人類史上初めて平等を説いたのは釈迦であり、紀元前5世紀ごろのこととされる。生まれではなく行為によってパラモンであるとした。サンスクリット語で平等はShama (シャマ) といい、英語Sameの語源である。Sameは性質や状態が同じであることを示す。平等は大乗仏教の教えの1つとして5世紀に日本へ伝来した。18世紀末に自由、平等、博愛を掲げたフランス革命よりも遥か昔のことである。

未来はどうか。ChatGPTでは例えばプログラミング言語は書記言語を超えて口頭言語への置換が絶賛進行中である。数年以内にAIはシンギュラリティを迎え、現実世界の肉体としての男女はデジタルインターフェイスの1つの情報のみを示すことになり、例えば、今日は男性、明日は女性、明後日は動物、明々後日は植物にさえなることが可能で、すなわち多様性を一個人が内包するだろう。そしてそれはもはや人間ではなく情報思念体かもしれないが、無限の多様性を以て他人とSameであるともいえる。

さて、結論は先に述べた通りであり、そろそろ時間なので、帰宅はいつも久し振りだけれども、自省する私を笑顔で待っていてくれる妻と息子に心より感謝して筆を置く。



鉄道好きな息子に鉄道を作る未来もあると伝える、プラハ駅にて